

保護者ボランティアによる読み聞かせ活動 一学期

★日時：7月5日（火） 8：25～8：40

・小学部1、2年担当 内藤 様

「ひみつのカレーライス」

・中学部担当 新井 様

「くまとやまねこ」

・小学部4、5、6年担当 大石 様

「ふしぎなでまね」

「でんせつの きょだいあんまんを はこべ」

★活動についてのフィードバックの声

・子どもたちがとても真剣に、でも、とても優しく聞き入れてくれていたので、読み手もとても楽しく本を読むことができました。聞く側、読む側ともリラックスして時間を共有できたように感じられたので、より楽しい時間になったと思います。ありがとうございました。

● 図書室で読ませていただきましたが、子どもさんたちは皆お行儀よく座り、身を乗り出すように絵を見てくれました。カレーライスの種を見つけた少年が、種を庭に植え、木に実ったカレーライスをみんなで食べるというお話ですが、読んだ後に「お寿司の木が欲しい」「ラーメンの木の種がいいな」という可愛らしい感想を口にしていたのが印象的でした。去年は5、6年生に読ませていただき、その時も皆熱心に聞いてくれました。1、2年生は、お話や絵にすぐ反応してくれたり、素直で子どもらしい意見や感想を言ってくれるので、学年によって興味や反応が違うのだと実感しました。私自身、いい経験になりました。ありがとうございました。

・中学生への読み聞かせは、とても緊張しました。今回読みました「くまとやまねこ」は別れ、そして出会いをテーマにした絵本だと思い、選びました。なぜなら、ここバーレーンにいるからこそ出会いも別れもとても身近で、日本で読むときよりもきっと子どもたちの心に強く何かが残るのではないかと、何か残って欲しいと思ったからです。読み聞かせをするにあたり、読む場所も大切なのだと今回思いました。ありがとうございました。

★担当より

昨年度に引き続き、本年度も読み聞かせ活動にご協力いただきましてありがとうございます。

今回は3クラスとも絵本を読み聞かせしていただきました。選本への想い、お話を聞いている際の子どもたちの様子や反応についてのフィードバックをいただき、読み聞かせには、やはり読む人と聞く人の想いや心の通い合いがあるのだと感じました。たった15分という短い時間ではありますが、毎回読み聞かせをしているその場の雰囲気にも温かさを感じます。それはきっとこの双方の心の通い合いがあるからなのだと改めて思いました。

また、保護者の皆様の読み聞かせを通して、毎回子どもたちのみならず私たち教員も、新しい本との出会いをいただいていると感じています。本当にありがとうございます。「世界にはまだまだ出会っていない本が山ほどある。」そう考えるとワクワクしてきますね。

さて、今回は「絵本の読み聞かせ」ということで、私からもこの機会に一冊の本を紹介させていただきたいと思います。「えほんのせかい こどものせかい」という児童文学研究者の松岡亨子さんが書かれた本です。専門的な内容も多いものの、なぜ子どもに読み聞かせが必要なのか、どのように読み聞かせると良いのか、といったことがわかりやすく語られています。もし、この活動を通して「読み聞かせ」についてもっと知りたい、学びたいと興味をもたれた方がいらっしゃいましたら、この本はお薦めです。

以下、目次の一部を紹介します。

☆子どもを本の世界へ招き入れるために☆

- ・子どもに本を読んでやる時、その声を通して、物語といっしょに、様々な「良いもの」が子ども心に流れこみます。
- ・素直に飾り気なく、そして、できれば心をこめて読んであげてください。それが一番いい読み方だと思います。
- ・物語絵本は楽しむもの。どうぞ、質問魔、説明魔にならないでください。
- ・絵本の時代は、心を育てる時代です。子どもが絵本から受ける素朴な感動を、うんと大事にしてやってください。
- ・幼児の時代は、絵でものを考える時代です。だから、絵本が必要になってくるのです。
- ・絵本は子どもたちに知識を与え、子どもたちの想像力の働きを支えることによって、子どもの中に、物事を絵にする力を養います。
- ・優れた絵本は、子どもたちの「ものを見る目」を養います。
- ・絵本の善し悪しを見極める目を養うために、「満25歳以上」の絵本を読みましょう。
- ・絵本のもっている様々な要素のうち、私は、わけても「あたたかみ」を大事に考えます。
- ・子どもの中にある「良いものに手を伸ばそうとする力」と、良い本の中にある「子どもに訴えかける力」とを信頼しましょう。

☆新しい経験としてのおはなし☆

- ・子どもたちはお話の中に、まずひとつの経験＝精神の冒険を求めます。そのためには、ぜひとも主人公と一体化する必要があるのです。
- ・子どものお話は、構成についても、表現についても、昔話から学ぶところ大です。
- ・お話の文章は、子どもの心を主人公という乗り物に乗せて、遠くへ運ぶレールの役目を果たします。

そして最後に松岡さんはこのように言っています。

「わたしたちにできることは、子どもが本と出会う機会をできるだけ多く作ってやること」。

今週末から夏休みに入ります。ご家庭でも、親子で読み聞かせをする時間や一緒に読書をする時間を設けてみてはいかがでしょうか。



中学部



4、5、6年生



1,2年生

